



## 大井 篤

OI Atsushi

三井物産

常務執行役員関西支社長

# 三井物産のこころ

関西は三井物産をはじめ三井グループ各社とゆかりの深い地です。三井家の家祖、三井高利は1673年に「三井越後屋呉服店」を江戸に、その仕入れ店として京都に京本店を設けました。その足跡は今も「三井越後屋京本店記念庭園」として大切に守られています。高利は晩年を京都で過ごし、遺言により洛東にある真如堂に葬られました。以来三井家の菩提寺となった真如堂には高利夫妻および三井各家累代の墓や越後屋の奉公人の共同墓地、三井グループの中核企業で作る「二木会」が建立した慰靈塔などがあります。当支社でも年初に幹部が参拝し、貫主の講話を聞くのが恒例行事となっています。また、二木会が寄進した研修道場「真如山荘」では三井物産の全新入社員を集めて三井の歴史や理念を学ぶ研修などを行っています。

旧三井物産は、大阪の造幣局で大蔵官吏として造幣権頭の経歴を持つ益田孝により1876(明治9)年に設立されました。益田は通商の分野で国家に貢献しようとの思いが強く、創業の翌年には上海に、その後も東南アジアにつづつと支店を出しました。ベトナムやタイなど100年以上の歴史を誇る支店も少なくありません。そしてその意気込みは社名に「物産」—“物を産す、Creation of the world”を採用したことにも表れています。「この仕事は単なる金もうけではない、世界相手の勝負だ」との益田の決意が見て取れます。一方、社名の英語表記MITSUI & CO.は“三井と仲間たち(company)”を意味しています。会社とは三井の歴史と理念に共鳴した同志が集まり、良い未来を作る場だと考えていました。

益田も大切にした三井の理念は、高利の遺訓をその長男高平が改めた三井家の家憲「宗竺遺書」にまとめられています。そこには、信用第一や三方よしをはじめとして現代の



和綴じで製本された宗竺遺書(三井文庫提供)

コンプライアンスにも通じる考え方や、質素・儉約・誠実、自制・謙虚・勤勉、リーダーの心構え、人材の大切さとその育成方針、複式簿記の重要性など、商売の根源的な要素が書かれています。

この「宗竺遺書」や「眼前の利に迷い、永遠の利を忘れるごときことなく、遠大な希望を抱かれることを望む」などの益田の言葉を基に2004年に策定したのが「三井物産の経営理念(Mission, Vision, Values)」です。常にこれを心に留めて仕事をするよう、会長・社長以下全社員の社員証にその全文を記しています。

古くは1600年代から受け継いできたかずかずの言葉や思いは「三井物産のこころ」ともいるべきものです。連綿と引き継がれてきたこの三井のDNAは、商いのまちであり、商道徳の何たるかが浸透していた京都や大阪で三井が育て鍛えられたからこそはぐくまれたのではないか、昨年4月から関西支社長としてこの地でビジネスをしてきてその思いを強くしています。

関西の人は駄目なものは駄目、良いものは良いとわかりやすく話が早い。この関西スタイルこそがビジネスの世界では今も昔もグローバルスタンダードです。先人より受け継いだビジネススタイル、iPS細胞をはじめとするメディカルヘルスケアや再生可能エネルギーといった新しい時代をリードする分野に強い研究機関や企業の集積など、関西は素晴らしい要素を数多く持っています。進むべき方向を見定め、産学官が協力すれば発展する余地は十分にあります。そして関西が西の横綱になることが日本の健全な発展にもつながります。われわれも「三井物産のこころ」を胸に刻み、高利が見守る関西の地に貢献できる事業を手がけていきたいと思っています。

(談)